

平成31年3月15日
釜石市教育委員会
釜石市鈴子町15-2
TEL 22-8832
FAX 22-3633

かまいし

より深い学びへ、効果的な活用のために

釜石市ICT活用教育の推進について

2020年度から小学校で、2021年度から中学校で全面实施される新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力の一つとして情報活用能力をあげています。そして、情報活用能力を育成するためには、各学校において日常的に情報技術を活用できる環境を整え、全ての教科等において、情報技術を適切に活用した学習活動の充実を図る必要があります。また、子どもたちが基本的な操作を習得するための学習活動やプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考を身に付けるための学習活動を計画的に実施していくことが必要です。



タブレットPCを活用した理科のICT活用授業公開（釜石中学校）

効果的な活用に向けて

9月19日（水）釜石市情報教育担当者研修会を開催し、岩手大学教育学部 宮川洋一教授から御講話いただき、「これからのICT活用教育・プログラミング教育について」理解を深めることができました。また、教育研究所授業づくり研究班では、各教科でのICT機器の効果的な活用について研究・授業実践を重ね、子

どもたちが興味を深め、分かりやすく学ぶための具体的場面について、多くの活用方法を提案していただいています。

プログラミング教育・情報モラル教育

平成28年度から釜石市では、平田小学校・大平中学校2校がICT活用モデル校として先進的に取組を実施しています。今年度平田小学校からは、来年度から必修化となる「プログラミング教育」について授業提供をいただきました。市内小中学校の先生方にも授業の様子を参観いただき、これからの教育につなげていただく機会となりました。今後引き続き、プログラミング教育、情報モラル教育等、未来を担う子どもたちに必要なICT活用教育を推進してまいります。



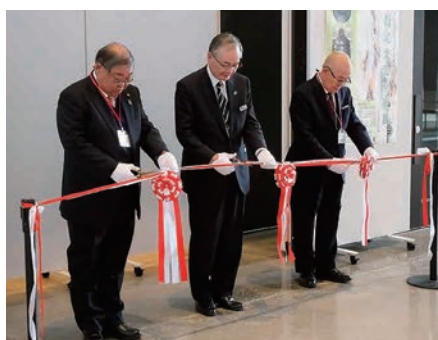
プログラミング教育授業公開（平田小学校）
「宇宙旅行をしよう」総合的な学習の時間

文化財通信

『指定文化財展Ⅲ』成功裏に

指定文化財は、先人より受け継ぎ、語り継がれてきた釜石市にとって文化と歴史を伝える重要な文化財です。これを、広く公開し、市民の皆様にも深く知っていただくため、第18回釜石市有形文化財公開事業「指定文化財展Ⅲ」を、2月1・2・3日（金・土・日）の3日間釜石市民ホールTETOホールBで開催いたしました。

有形文化財公開事業は、昭和56年の「鳳山展」から始まり今年で18回目となりました。震災前の平成22年1月に第17回を開催して以来、約9年ぶりの開催となりました。



オープニングセレモニー

今回、展示した文化財は「指定文化財Ⅲ」と題し、県指定市指定の文化財を中心に展示いたしました。

普段見ることでできない貴重な文化財は、慎重かつ丁寧に扱う必要があり常に緊張感のある中で展示を行いました。開会後の展示室内は、終始観覧者が途切れることがありませんでした。

アンケートでは皆様から「釜石にもこのような文化財があることに驚きました」「知らないことが多く勉強となった。」「審議委員の方々から説明、解説をいただきとても分かりやすかった。」といったご感想を数多くいただきました。

また、2月2日（土）には、チームスマイル・釜石PITにて特別講演会「我が郷土の文化財」と題し、釜石市文化



展示会場内の様子

財保護審議会長板澤利幸氏にご講演をいただきました。

釜石市の文化財を広く紹介していただき、市指定となった背景や、文化財の貴重性をご説明いただきました。「資料にまつわる会長さんの話が良かったです。」「次は街道について話しを詳しく聞きたい。」といったご感想をいただきました。

最後に、ご来場いただきました市民の皆様、資料提供にご協力いただきました所有者の皆様に深く感謝を申し上げます。

第18回有形文化財公開事業 『指定文化財展Ⅲ』

来場者数 合計 323人
講演会「我が郷土の文化財」
来場者数 75人



講演会

かまいし絆会議 ～未来への第一歩～

今年度第2回目となった「かまいし絆会議」未来への第一歩が12月26日（水）に釜石中学校を会場に行われました。

初めに、独自ボランティア「いわて・かまいしラグビー応援団」の応募申込受付書を、副市長から専門部会のリーダーに贈呈していただきました。その後、副市長からは東日本大震災からの復興支援に対し「ありがとう」の気持ちを伝える取組、復興支援で深まった絆を広げる取組への感謝の言葉をいただきました。さらに今後の取組への期待と、一緒にラグビーワールドカップを成功させようという力強い言葉もいただきました。また、釜石市内全小・中学生に「いわて・かまいしラグビー応援団」のステッカーが送られました。

2学期には中学生の専門部員による話し合いが行われました。各小・中学校から壁画のデザインに入りたい絵や言葉、またPRビデオで使う歌の歌詞に入りたいフレーズや言葉を募集しました。それを基にデザインや歌詞が決定されました。

会議では、それぞれの専門

部会のリーダーから小学生に對して、決定した壁画のデザインと歌詞についての発表がありました。また、今後の活動の進め方について、みんなで確認し合うことができました。

■壁画について

デザインには、ラグビーボールや虎舞、SL銀河など、釜石を象徴する絵を組み入れることとなりました。

会議では壁画に使用するホタテ貝に実際に色塗りをしました。3学期には各校で色塗りをすることから、子どもたちは準備する物、塗り方の手順を確認しながら作業を行いました。

■歌について

歌詞は、震災後に心を寄せてくれた人達、友達、家族、ラグビーワールドカップ開催に力を尽くしている人達みんなに「ありがとう」の思いが伝わるものとなりました。曲のタイトルは「ありがとうの手紙」#Thank you From KAMAISHIです。

歌詞を全員で確認した後、作曲してくださった佐藤さんの指導のもと、練習を行いました。

■今後について

完成した歌の披露は、ラグビーワールドカップの関連イベントでの発表が目標です。今後、発表に向け、各校で練習を重ねることとなります。

また、それぞれの中学校区で取り組む活動についても、具体的に話し合いました。ラグビーワールドカップに向け、「ラグビーについて学ぶ機会を設ける」、「外国語でのあいさつを行う」など様々なアイデアが出されています。各校での主体的な活動を通した子どもたちの成長も大変楽しみです。

いよいよ9月にラグビーワールドカップが開催されます。感謝の思いを伝えるため、お互いに意見を交わしながら主体的に取り組むことで、世界中の人々との「絆」を深める担い手として、子どもたちが主役になることを期待しています。



教え合いながらのホタテの貝殻の色塗り

「社会を強く生き抜く力の育成を目指して」

1月11日(金)、平成30年度第41回釜石市教育研究所研究発表大会が開催され、午前中は保健福祉センター、青葉ビル、市民ホールTETTOの各会場で分科会(こころの教育研究班・授業づくり研究班・学級づくり研究班・幼保小連携推進委員会)を行い、午後は市内小中学校教職員その他、市内の幼稚園、こども園、保育園、PTA関係者も含めて計260名が市民ホールTETTOに一堂に会しました。

「こころの教育研究班」では、「考え・議論する」ことを意図的に設定した授業実践を通して、研究テーマ「主体的によりよい生き方を目指す子どもの育成」を考え、議論する道徳授業を通して「に迫りました。発表者からは主体的に考えを深めて多様な意見を出し、互いの考えから学び、自分の行動を向上させた」と思う児童生徒が増えてきたこと、また、「考え・議論する」道徳の授業づくりが、授業開始時の資料提示の工夫やねらいに沿った発問の吟味につながるといった成果が出されました。

「授業づくり研究班」では、

所感用紙より(授業づくり)

今年度導入されたICT機器の効果的な活用をさぐる実践研究発表は大変参考になった。授業のどの場面で何のために使用するかを授業者がよく考えて使うことが大事で、使用が目的ではないということを押さえておきたい。

所感用紙より(学級づくり)

特にすばらしいと思ったのは子どもたちの話し合う力がついていることだった。学級をよりよくしていくとアイデアを出し合い、よい「作戦」を考えるところまで話し合う力は、各教科にも生かされる力だと思った。学級づくりは授業づくりの基本であることを改めて考えさせられた発表であった。

続いて国立特別支援教育総合研究所・総括研究員 久保山茂樹先生から、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、多様な在り方を認め合える全員参加型の共生社会の形成に



国立特別支援教育総合研究所の先生方

研究テーマを「主体的・能動的に学ぶ授業の在り方」ICT機器の効果的な活用を通して」とし、タブレットPCを中心とした、ICT機器を活用した授業の在り方について、数多くの効果的な活用が実践事例として発表されました。アンケートからまとめられたICT機器活用の成果、課題と問題点、今後の活用のアイデア等についても報告されました。

「学級づくり研究班」では、研究テーマを「自分たちの活動を主体的によりよいものにしていく学級づくりの在り方について」とし、自分たちの学級の様子をリーダーチャートで可視化し、共有する場を作り、話し合い活動を行い、実践する場を保障するというRPDCAサイクル

「幼保小連携推進委員会」では、テーマを「互恵性のある幼保小連携のよりよい在り方を探る」子ども達の発達や学びの連続性を捉えた交流のあり方」とし、互いの保育や授業を参観することを通して子どもたちの様子、教師や保育士の役割についての相互理解を深めるとともに、年長児と小学一年生のよりよい交

流のあり方についても探りました。幼保小連携の上で大切にしたいことや教師の役割とよりよい交流のあり方について迫った発表となりました。

午後は、まず、学校事務の共同実施釜石西グループがICT教育支援について全体発表を行いました。発行される釜石ICT通信を蓄積していくことで機器活用のマニュアル化ができることや、新設した「釜石教育ポータルサイト」の紹介など、「教師のひと手間を省く利便性の提供こそが事務職員の使命」という言葉に象徴される熱意あふれた発表で、子どもたちのために学校一丸となって取り組んでいることを再確認することができました。

ついでお話をいただいた後、「子どもの『多様性』を『可能性』に」特別支援教育による釜石市の活性化」と題した同研究所・主任研究員 宇野宏之祐先生、研究員 平沼源志先生による講演で、集中すること、聞くことに困難さが伴う場合があることを演習によって体験。「多様性」を踏まえた学習活動の大切さを実感しました。宇野先生は子どもの「多様性」を「可能性」としてとらえることが、多様な「人」の能力を最大限伸ばし、活力ある釜石市の未来につながっていくと説かれました。市内の全教職員、行政関係者、保護者等、地域の方々も参会し、将来の釜石に思いを馳せながら教育の現状と今後の方向性を考えることができた有意義な会となりました。

「わが家の献立」入選作品決定

「わが家の献立募集」表彰式が平成30年12月17日(月)教育センターで行われました。

この事業は、家庭でメニューを考え料理を作ることを通して、自然や食べ物への関心と、食に関わる人々への感謝の心を育み、生涯にわたって自己の健康管理ができる児童生徒を育てることを目的としています。

今年度は、食べ過ぎを防ぎ、肥満予防にもつながる「かみかみ食材を使った副菜料理」をテーマに献立を募集したところ、工夫を凝らした101点の応募をいただきました。入選作品は次の通りです。



授賞記念写真

【最優秀賞】

「美味(おい)しいだけ」

釜石小学校6年

関谷 佑 恭さん

【優秀賞】

鶴住居小学校1年

橋本 姫奈さん

釜石小学校6年

阿部 唯花さん

釜石小学校6年

藤原 和海さん

双葉小学校3年

佐々木 諒 惺さん

【佳作】

釜石小学校5年

藤田 恭輔さん

釜石小学校5年

志土富 翼さん

小佐野小学校2年

吉田 聖さん

唐丹中学校2年

川原 凜乃さん

【学校賞】

釜石小学校

釜石中学校

この作品の中から分量等を調整して学校給食に取り入れていきます。

平成31年度 教育行政方針

平成31年3月釜石市市議会定例会において、佐藤功教育長が述べた主な内容をご紹介します。

震災による困難を乗り越え、「希望と笑顔があふれるまち釜石」の創造のために、10年後、20年後の釜石の、日本の発展を担っていく「ひとつくり」が、当市の教育に課せられた使命である。

「スクラムかまいい復興プラン」で定めている基本目標のうち、「絆と支えあいを大切にするまちづくり」、「強く生き抜く子どもを育てるまちづくり」、「歴史、文化やスポーツを生かしたまちづくり」の3つは、当面の基本的な目標を示すもので、当市教育委員会では震災後から、この3つの目標のもと、毎年度「教育行政方針」を策定して、諸施策を多岐にわたって展開し、復興を推し進めている。

釜石市の一人ひとり、すべての子どもたちが未来の夢と希望を抱き、その実現に向かって努力邁進できるよう、徳・知・体の調和のとれた「強く生き抜く力」の育成を図るのが当市教育の中心的なねらいである。

生き抜く力とは、具体的に「自他の命を尊ぶ力(心)」、「基礎基本の学力」、「心身の健康」の3つであり、それらの

合力であると捉えております。「強く」とは更に、自ら心身を鍛え、困難を乗り越え、自らの道を切り開いていこうとする逞しさである。

「強く生き抜く力」の3つの力のうちでも、人格形成の基盤となる最も大事な力は「自他の命を尊ぶ力(心)」である。その醸成には、「生命は無常であること」、「生命は助け合い支え合って成り立つものであること」等の学習を通して、子どもたちが「生命への畏敬の念」を抱き、「生きていくことへの感動・感謝」「他への思いやり・いたわり」の大切さを自覚し、この尊い生命を自分はどうのように使っていくべきなのかを思考させていくことである。

これを「いのちの教育」として、防災学習や道徳等あらゆる場を通して感得できるように取り組みを進める。

今年秋のラグビーワールドカップ2019™釜石開催の成功に向けての取り組みが、子どもたちの大きな夢と希望を持ち、強く生き抜く意欲を更に抱く絶好の機会になり、そして、釜石復興の大きな後押しとなるよう、教育委員会、学校と連携し積極的に取り組みを進める。

釜石の子どもたち一人ひとりが元気に意欲をもつて学ぶ

姿と、明るい笑顔があふれる学校の姿が、地域・市民の大きな希望となるよう、釜石の豊かな自然環境、深い文化、優れた地域人材を積極的に活用し、強く生き抜く子どもを育てるまちづくりに全力で取り組んでいく。

施策の概要

強く生き抜く力の育成

- 1 学校教育の充実
- 2 家庭・地域と連携・協働した教育活動の推進
- 3 いのちの教育の推進
- 4 こころのサポートの推進
- 5 豊かな心の育成
- 6 基礎基本の学力の定着と向上
- 7 健やかな体の育成
- 8 特別支援教育の充実
- 9 生徒指導の充実
- 10 就学前教育の充実
- 11 国際理解教育の充実
- 12 教職員が子どもに向き合う時間の確保
- 13 学校給食の充実
- 14 学校教育環境の整備
- 15 文化財の保存・保護・活用
- 16 屋形遺跡の国指定史跡に向けた取り組み
- 17 郷土芸能への支援

詳しくは、市ホームページをご覧ください。